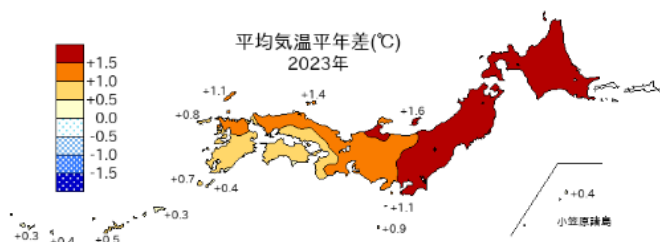


令和5年地球温暖化影響調査レポート（概要）

- 「地球温暖化影響調査レポート」は、都道府県の協力を得て、地球温暖化の影響と考えられる農業生産現場における高温障害等の影響、その適応策等について報告のあった内容を取りまとめたもの。（「農林水産省地球温暖化対策総合戦略」（平成19年6月策定）及び「農林水産省気候変動適応計画」（平成27年8月策定）に基づき、平成19年より取り組みを開始。）
- 令和5年地球温暖化影響調査レポートの調査対象期間は、令和5年1月～12月である。

令和5年の気象の概要

年平均気温は全国的に高く、特に北・東日本では年平均気温が1964年の統計開始以降、1位の高温、西日本では1位タイの高温となった。
秋は西日本太平洋側で記録的な少雨多照となった。



発生報告の多い農畜産物における影響と適応策の実施状況

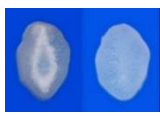
表中の割合は、作付面積（飼養頭羽数）に対し、発生による影響がみられたおおよその割合

水稲

・ 出穂期以降の高温により白未熟粒の発生による影響が北・東日本では5割程度で昨年より大きく、西日本では4割程度でみられた

また、粒の充実不足などの影響がみられた

白未熟粒(左)と正常粒(右)



	全国	北日本	東日本	西日本
白未熟粒の発生	5割程度	5割程度	5割程度	4割程度
粒の充実不足	1割程度	1割程度	2割程度	2割程度

果樹

・ りんごでは、着色不良・着色遅延による影響が北・東日本では3割程度でみられた

・ ぶどうでは、着色不良・着色遅延による影響が西日本では4割程度でみられた

・ うんしゅうみかんでは、日焼け果の発生による影響が西日本では4割程度でみられた

りんご 着色不良・着色遅延

3割程度

3割程度

3割程度

－

ぶどう 着色不良・着色遅延

2割程度

2割程度

2割程度

4割程度

うんしゅうみかん 日焼け果

3割程度

－

1割程度

4割程度

野菜

・ トマトでは、収穫期の高温により着花・着果不良の発生による影響が全国では4割程度でみられ、東・西日本では4割程度でみられた

・ いちごでは、花芽分化期の高温により花芽分化の遅れの発生による影響が全国では4割程度でみられ、西日本では5割程度でみられた

トマト 着花・着果不良

4割程度

2割程度

4割程度

4割程度

いちご 花芽分化の遅れ

4割程度

2割程度

4割程度

5割程度

畜産

・ 乳用牛では、高温により乳量・乳成分の低下、繁殖成績の低下の発生による影響が全国では1割程度でみられた

乳用牛 乳量・乳成分の低下

1割程度

1割程度

3割程度

2割程度

乳用牛 繁殖成績の低下

1割程度

1割程度

2割程度

1割程度

・ 白未熟粒、胴割粒の発生抑制のため、水管理の徹底、適期移植・収穫

・ 穂肥施用等の肥培管理の徹底

・ 適期防除の徹底

・ 高温耐性品種の導入

(作付面積は全国で約18万ha、高温耐性品種の占める割合は14.7%、前年産に比べ1.9ポイント上昇)

・ りんご、ぶどうの着色不良・着色遅延対策として、着色優良品種や着色を気にしなくてよい品種の導入など

(ぶどうでは、黄緑系品種の導入など)

・ 日焼け果対策として、りんごにおいては遮光資材の活用、うんしゅうみかんにおいてはカルシウム剤の散布、樹冠表層の摘果、被覆など

黄緑色品種



・ トマトの着花・着果不良対策として遮光資材の活用、細霧冷房・循環扇、着果率の高い品種の導入など

・ いちごの花芽分化安定・促進対策として新品種導入やクラウン部の冷却、培地昇温抑制、遮光資材の活用、細霧冷房など

着花不良となったトマトの花



・ 牛舎の送風・換気

・ 細霧冷房の導入

・ 早期給餌や日陰の確保など

牛舎の細霧冷房装置



温暖化による新たな品目への取組

さつまいも

北海道：農業試験場において栽培マニュアルが整理されるなどの取組が進み、栽培面積が100ha（2023年）まで増加。

秋田県：生産ニーズの高まりを受け、適応品種等を栽培実証。

